

公表 事業所における自己評価結果

事業所名 **ここいる**

公表日 **令和7年3月20日**

回収率 **100%**

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 訪問支援に使用する教具教材は適切であるか。	5	0		
	2 利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	0		
業務改善	3 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	0		
	4 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0		
	5 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0		
	6 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	4	今後、第三者委員会に繋げていけるといい。	様々な問題に対応できるよう努めます。
	7 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	0		
適切な支援の提供	8 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、保育所等訪問支援計画を作成しているか。	5	0		
	9 保育所等訪問支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	0		
	10 保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んでいるか。	5	0		
	11 保育所等訪問支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4	1		支援会議や朝礼時に職員間で情報共有をしている。
	12 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	1		行動観察など、インフォーマルなアセスメントを行っている。フォーマルなアセスメントは、必要に応じJMAPを行い、職員間で情報共有し支援に役立てるようにしている。
	13 保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の提供すべき具体的内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。	5	0	多職種で連携しながら、それぞれの視点で具体的な支援内容を定めている。	子ども、支援先の職員、家族への支援を提供します。
	14 保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	0		
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	0		
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	0		
	17 保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。	5	0		
関係機関や保護者との連携	18 毎回の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	0		
	19 定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、保育所等訪問支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	0		
	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	0		
	21 地域の保健、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	0		
	22 就園・就学時の移行の際には、保育所等や学校との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	0		
	23 質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	5	0		
	24 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子どもの子育て会議等積極的に参加しているか。	4	1	機会を持つことが望ましい。	管理者が子ども部会に参加している。
	25 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	0		
	26 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	3		今年度は、祐愛のスタッフが親の会で講師を務めました。

保護者等への説明等	27	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	0		
	28	訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	5	0		
	29	保育所等訪問支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	0		
	30	「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。	5	0		
	31	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	0		
	32	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	4	保護者の意向をよく聞いて、子どものニーズを尊重し支援を考えている。	子どもや家族の想いを大切にします。
	33	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	0	相談には迅速に対応している。	保護者から求められた時は、相談に応じるようにしている。
	34	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5	0		
	35	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	0		
36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	0			
訪問先施設への説明等	37	訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。	5	0		
	38	保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。	5	0		
	39	保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。	5	0	訪問記録を訪問先や家族と共有しています。	今後も訪問記録で情報を共有します。
	40	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	0	名前などが見えないように布で覆うなど工夫している。	職員間で個人情報の取り扱いについて注意喚起していく。
	41	訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。	5	0	訪問先の先生が相談しやすいように気をつけている	分かりやすい説明を心がけます。
非常時等の対応	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	0		
	43	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	0		
	44	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	0		
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	0		
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5	0		

公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ここいる		
○保護者等評価実施期間	令和6年11月1日		～ 令和7年1月31日
○保護者等評価有効回答数	(対象者数)	113	(回答者数) 68
○従業者評価実施期間	令和6年11月1日		～ 令和7年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○訪問先施設評価実施期間	令和6年11月1日		～ 令和7年1月31日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	34	(回答者数) 33
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月20日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多職種で連携し、多角的に評価でき、支援を考えることができる。	訪問支援員で情報共有を密に行うようにし、よりよい支援方法を検討している。	訪問支援会議で、事例検討を行う。
2	保護者や子どものニーズに臨機応変に対応し、関係機関と連携し、訪問を実施している。	訪問支援会議や、朝礼のときに、訪問児の様子についてスタッフ間で共有している。	
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問支援員ごとに意見にバラつきがあること。	様々な専門家があり、専門と分野、得意な対象児の年齢がある。	支援会議での連絡を密にし、対象児にとってよりよい支援方法を考えていくこと。
2			
3			